

日常臨床における適切で安全な最小限の治療とは何か？

適切な診断とコンポジットレジン修復



歯科医療にかかわる歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士、歯科メーカーの仕事は、治療をお受けになった患者さんを再治療することなく快適な口腔内を長く保ち、健康に長く生きられるように様々な面からお手伝いをすることであります。

すなわち歯科治療の目的は治療をすることだけではなく、治療をしないにかかわらず長期的に健康な状態を作り出すことであろうと思います。未病で健康な状態を維持するといった意味において予防の果たす役割は歯科において一番大きいともいえます。歯科衛生士が主体となって行う予防は主に口腔内の細菌性プラークを除去することですが、歯科疾患の進行を左右する2大因子としてはこの細菌と力(顎機能)があるといわれています。細菌のみならず力に関する把握もとても重要な因子となってくるのです。

この2大因子を含んだ診査資料により、すでに予防管理されている口腔内への的確な診断が可能となり適切な技術的基準に基づいて治療がなされたとき最小で適切な歯科治療が達成されるのではないのでしょうか。

今回はこの考えに則って細菌と力の重要性、適切な診断基準、診断用ワックス、コンポジットレジン充填のテクニックなどについて皆さまと考えてみたいと思います。

歯科はチーム医療でありますから歯科衛生士、歯科技工士・歯科メーカーの方々の参加もお待ちしています。

講師 西川義昌 先生



1949年大阪府出身
1974年大阪歯科大学卒業
1975年原宿デンタルオフィス勤務
1995年鶴島中央病院歯科勤務
2000年現診療所を開設(渋谷区)
現在 MMG顧問、東京SJD会員
日本臨床歯科補綴研修会インストラクター

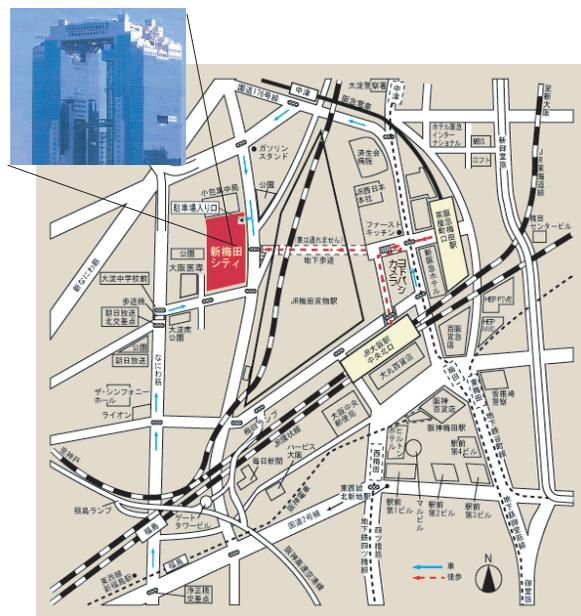
主な著書・文献(2003以降)

- 補綴臨床「失敗しない補綴治療のための誌上Polyclinic」 2003年9.11月、2004年1月
- 補綴臨床「歯冠修復のスタンダードを探る一診査・診断・治療の原則とその手技」
- 補綴臨床「変革からスタンダードへーこの治療を支えるこの器材システム」 2003年11月
- 歯科技工「この歯科技工のためにはこの処置・対応と製作情報を
歯科技工が歯冠修復治療として成立する要件」 2003年12月
- 歯界展望「確実な象牙質接着の理論と新しい蝕蝕検知液カリエステック」
- 歯科技工別冊「クリニカルクラスプデンチャー」 2004年12月
- 補綴臨床別冊「チェアサイドで行う顎機能診査のための基本機能解剖」 2004年6月
- 「歯科臨床のエキスパートを目指して vol.1コンベンショナルレストレーション」
1. 診査・診断と診断用ワックスアップ
- 「歯科臨床のエキスパートを目指して vol.2ボンディッド・レストレーション」
7. コンポジットレジンレストレーション

講演内容

- 適切な治療のための審査診断の基準とは何か
- 予防をスタンダードに
- 我々の考えるMIコンセプトとは
- 審美的効果的なコンポジットレジン充填法の実際
(ビデオ及びインストラクターによるデモンストレーション)

会場 梅田スカイビル
ウエストタワー 22F
大阪市北区大淀中1-1-18
TEL (06) 6440-3901



日時 平成18年 11月 5日(日)
午前10:00 ~ 午後4:30

参加費 12,600円(消費税含む)
昼食は含まれておりません

定員 80名(お申込み お振込み順)

主催 伊藤歯科器材(株) TEL06-6723-3555
振込先 近畿大阪銀行 今里支店 当座 2004676
(振込手数料は御負担ください)

お申込みFAX欄

FAX06-6723-3593 伊藤歯科器材(株)

参加ご氏名	DR	その他	住所〒
	DR	その他	電話 FAX
医院名			ご紹介者